

## 調査レポート

# グラフで見る東海経済 (2016年3月)

### 【今月の景気判断】

東海経済は、持ち直しの動きが一服している。生産は、1月に3ヶ月ぶりに増加したが、均して見ると横ばい圏で推移している。輸出は、1月の実質輸出が2ヶ月ぶりに増加し、均してみると持ち直し傾向にあるが、2月の名古屋税関管内の輸出額(速報)は3ヶ月連続で前年比減少となっている。雇用は、失業率、就業者数、求人倍率など、総じて横ばい圏で推移している。賃金は緩やかに増加している。個人消費は、物価の落ち着きによる下支え効果もあって横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる。設備投資は、大企業において製造業、非製造業ともに増加している。住宅着工は横ばい圏で推移し、公共投資は弱含んでいる。先行きについては、生産は、主力の自動車が発火事故による工場操業停止の影響で振幅するものの、均してみると横ばい圏での推移が見込まれる。輸出は、新興国経済減速の影響もあって横ばい圏での推移が見込まれる。消費は、所得環境が変わらない中、横ばい圏での推移が見込まれる。公共投資は減少傾向で推移し、設備投資は増加が続くと見込まれる。東海経済は、横ばい圏での推移が見込まれる。

### 【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	↗		→
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資	→		→	生産	→		→
設備投資	↗		↗	雇用	→		→
公共投資	↘		↘	賃金	↗		→

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

### 【当面の注目材料】

- ・世界景気～中国はじめ新興国経済の減速懸念、米国の利上げペースと新興国通貨安
  - ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、トヨタの生産動向、原油安と為替変動の影響
  - ・政策～消費増税先延ばしの判断、マイナス金利導入の影響、伊勢志摩サミット開催の影響
  - ・家計～春の賃上げの動向と消費行動への影響、資産価格変動の影響
- ～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

### 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 塚田裕昭 副主任研究員 杉本宗之  
〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2 / 〒461-851 名古屋市東区葵1-19-30  
TEL: 03-6733-1070 / 052-307-1106

**【各項目のヘッドライン】**

項目	2月のコメント	3月のコメント	ページ
1. 景気全般	持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している	3~4
2. 生産	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏で推移している	5~7
3. 雇用	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	8~9
4. 賃金	横ばい圏で推移している	緩やかに増加している	9~10
5. 個人消費	横ばい圏で推移しているが一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが一部に弱い動き	11~13
6. 住宅投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	13~14
7. 設備投資	増加している	増加している	14~16
8. 公共投資	弱含んでいる	弱含んでいる	16~17
9. 輸出入	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	18~19
10. 物価	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	19
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	20
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに減少	20

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）

（\*）参考資料：「グラフで見る景気予報」

<http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

**【前月からの変更点】**
**2. 生産**

1月の東海3県の鉱工業生産指数（速報）は、輸送機械、はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイスなどが増加し、前月比+3.5%と3ヶ月ぶりに上昇した。

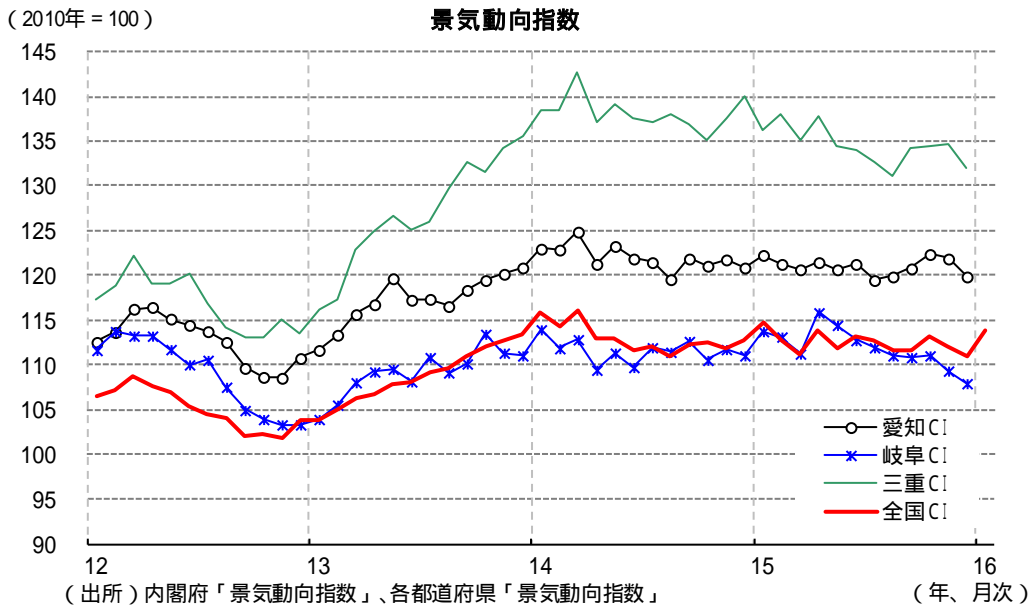
**4. 賃金**

東海3県の12月の名目賃金指数（現金給与総額）をみると、愛知県は、前年比+1.7%と4ヶ月連続、岐阜県は同+4.7%と6ヶ月連続、三重県は同+3.4%と2ヶ月ぶりに増加した。

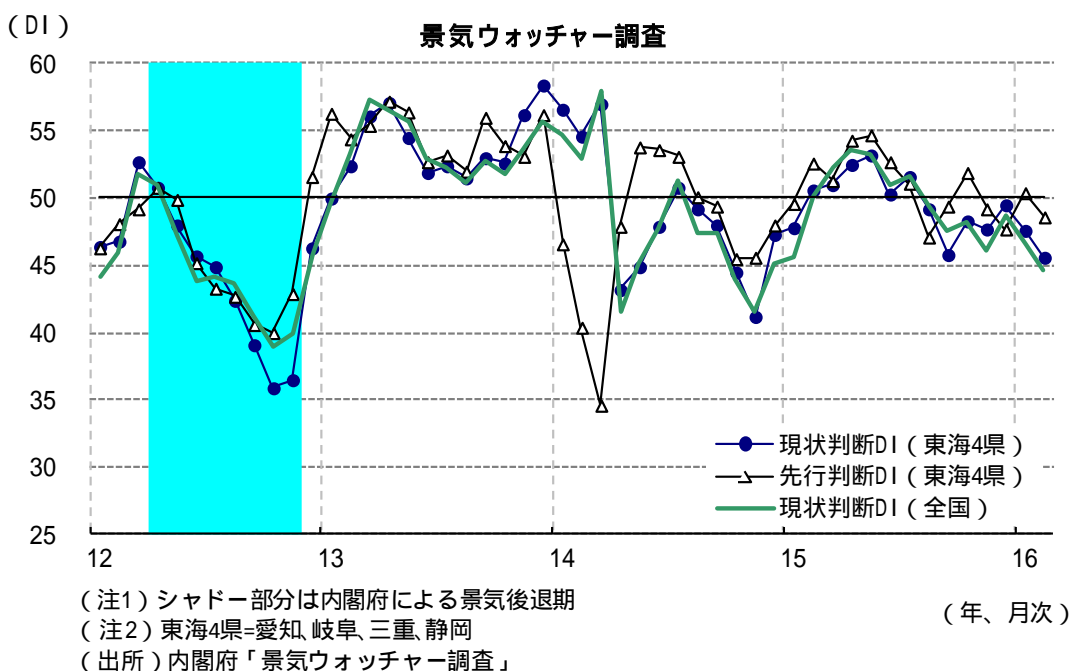


1. 景気全般 ~ 持ち直しの動きが一服している

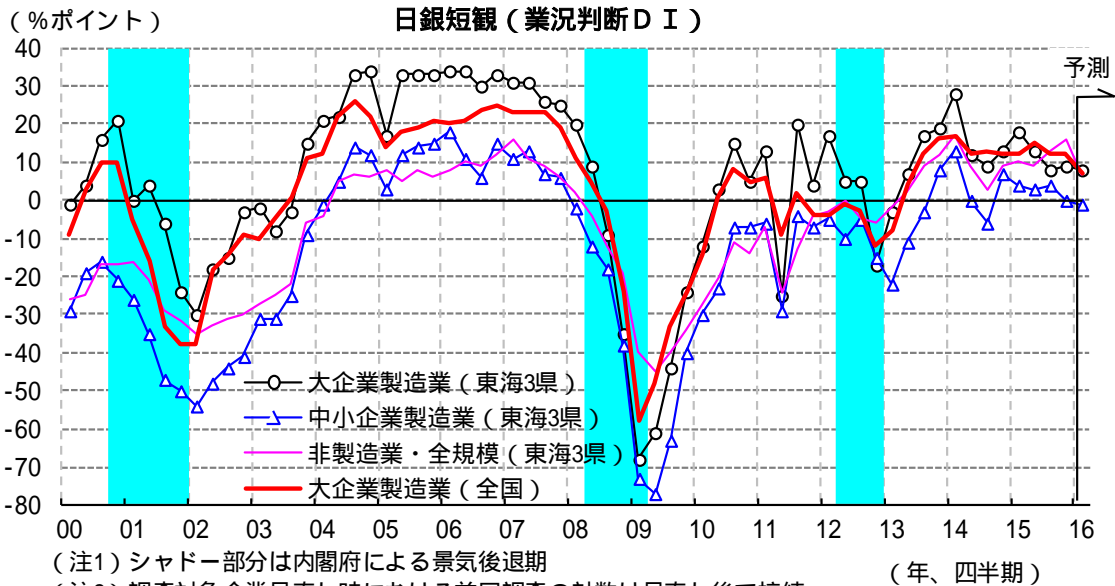
12月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、愛知県が8系列のうち6系列がマイナス寄与となり前月差 - 2.0ポイントと2ヶ月連続で低下、三重県は同 - 2.6ポイントと4ヶ月ぶりに低下した。岐阜県は同 - 1.4ポイントと2ヶ月連続で低下した。先行指数は、愛知県、岐阜県、三重県いずれも2ヶ月連続で低下した。



2月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DIが45.6と2ヶ月連続で低下（前月差 - 2.0）し、景気の横ばいを示す50を7ヶ月連続で下回った。家計動向関連の現状判断DIも44.0と2ヶ月連続で低下（前月差 - 1.4）し、7ヶ月連続で50を下回った。先行き判断DIは、同 - 1.8ポイントの48.6と2ヶ月ぶりに低下し、2ヶ月ぶりに50を下回った。

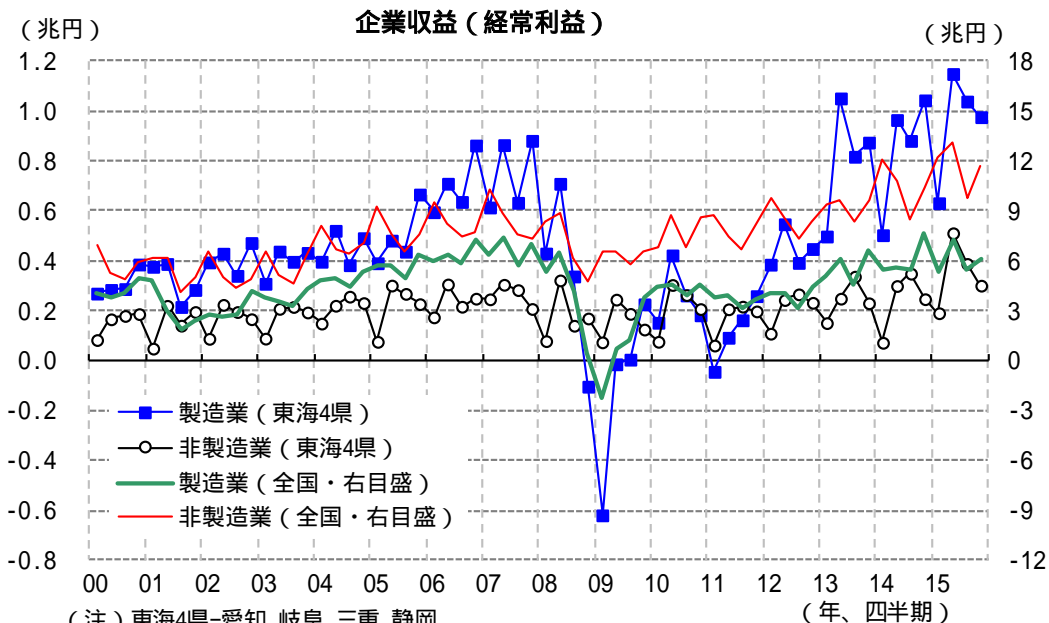


日銀短観 12月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は+9と、前回9月調査から1ポイント上昇、中小企業製造業は±0と4ポイント低下した。また、非製造業(全規模)は、前回より3ポイント上昇の+16となった。業況判断D Iの3月予測は、大企業製造業は+8、中小企業製造業では-1、非製造業(全規模)は+7と、いずれも悪化が見込まれている。



(注1) シャドー部分は内閣府による景気後退期  
 (注2) 調査対象企業見直し時における前回調査の計数は見直し後で接続。  
 (注3) 東海3県=愛知、岐阜、三重。  
 (出所) 日本銀行、日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」

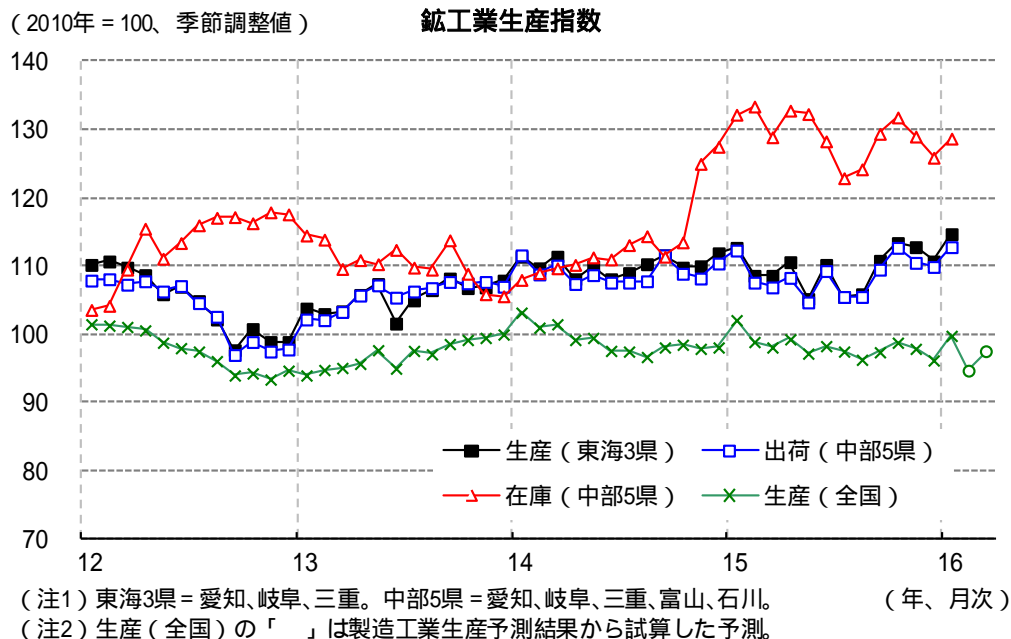
2015年10~12月期の東海4県の大企業の経常利益は前年同期比で-1.0%と6四半期ぶりに減少した。非製造業は同+21.8%と7四半期連続で増加したが、製造業は同-6.4%と6四半期ぶりに減少した。日銀短観12月調査では、東海3県の15年度の経常利益は、全産業で同+11.6%、製造業で同+6.0%、非製造業で同+33.5%と、いずれも9月調査時を上回る増加を見込んでいる。



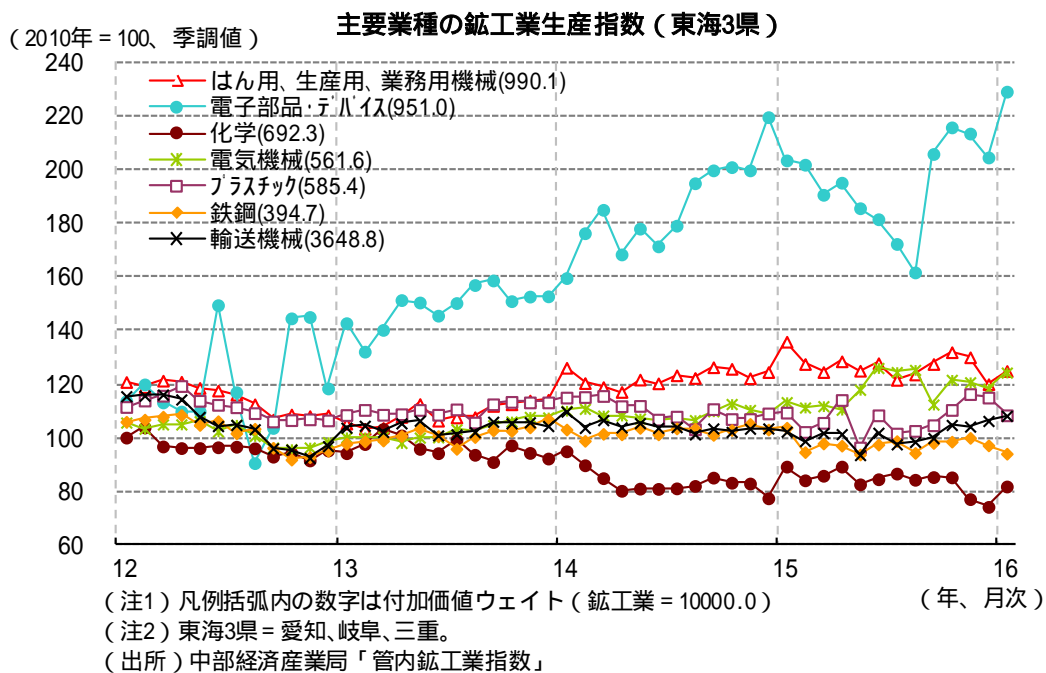
(注) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。  
 (出所) 財務省「法人企業統計調査」、東海財務局「四半期別法人企業統計調査」

## 2. 生産 ~ 横ばい圏で推移している

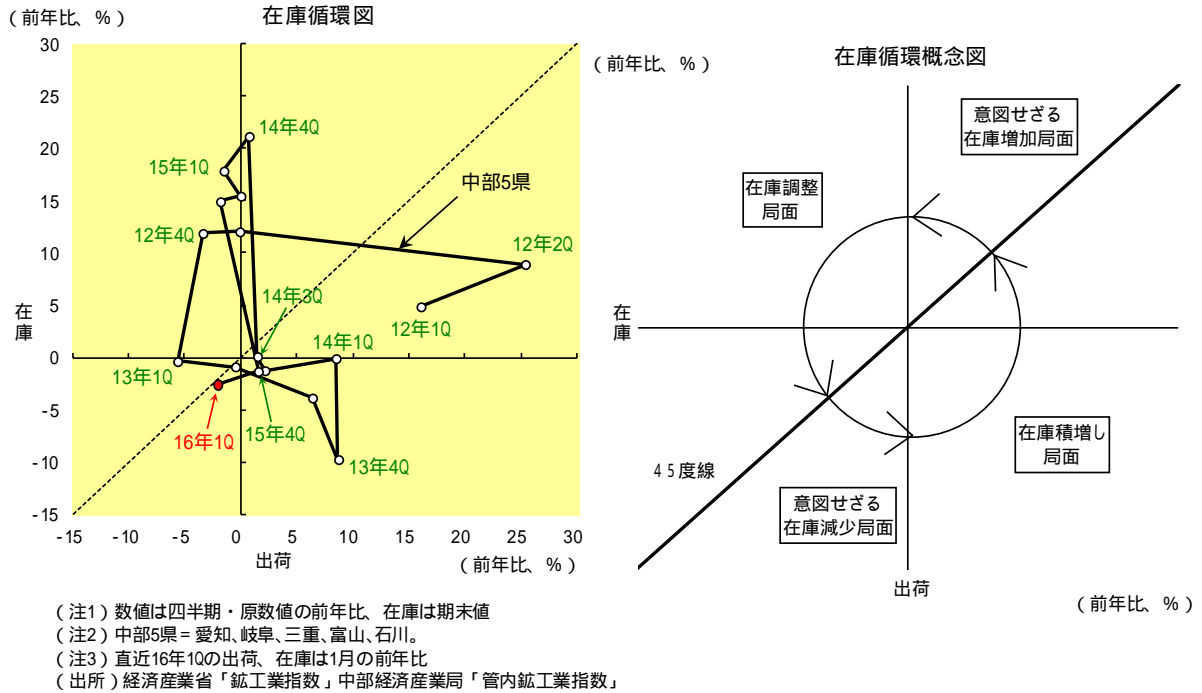
1月の東海3県の鉱工業生産指数は、前月比+3.6%と3ヶ月ぶりに上昇した。東海3県の生産は横ばい圏で推移している。今後については、主力の輸送機械では、2月にトヨタ自動車の工場操業停止による落ち込み、その後、挽回生産による高めの水準での推移が見込まれる。他業種を含めた東海3県の生産全体でも2月は減少するであろうが、その後は横ばい圏での推移が見込まれる。



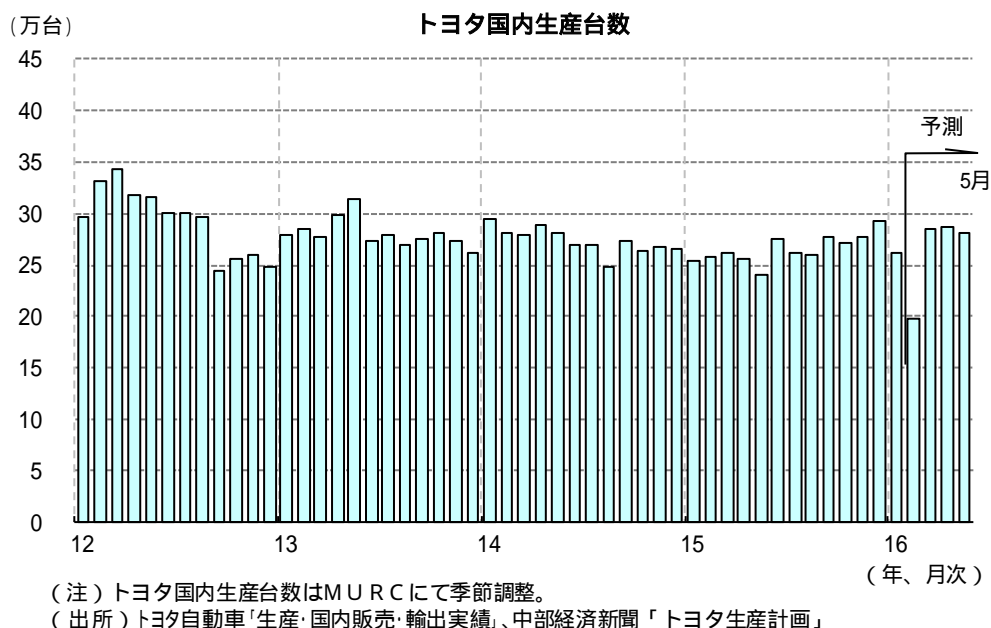
業種別では、プラスチック製品(前月比 - 5.7%)が2ヶ月連続で減少したが、輸送機械(前月比 + 1.8%)は2ヶ月連続で増加、はん用・生産用・業務用機械(同 + 4.1%)、電子部品・デバイス(同 + 12.0%)、電気機械(同 + 5.1%)はいずれも3ヶ月ぶりに増加し、化学(同 + 10.2%)は4ヶ月ぶりに増加した。



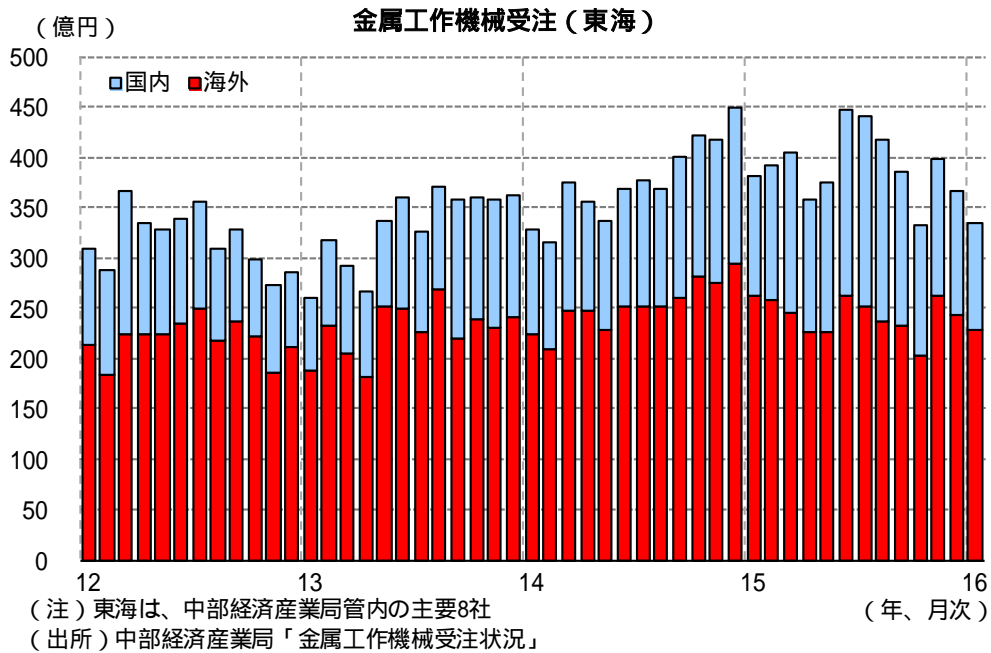
1月の中部5県の出荷は、前月比+2.6%と3ヶ月ぶりに増加した。鉄鋼業（前月比-6.5%）などが減少したが、電子部品・デバイス（同+11.4%）、電気機械（同+5.4%）などが増加した。在庫は、同+2.2%と3ヶ月ぶりに増加した。電子部品・デバイス（同-7.1%）などが減少したが、輸送機械（同+28.0%）、はん用・生産用・業務用機械（同+2.6%）などが増加した。



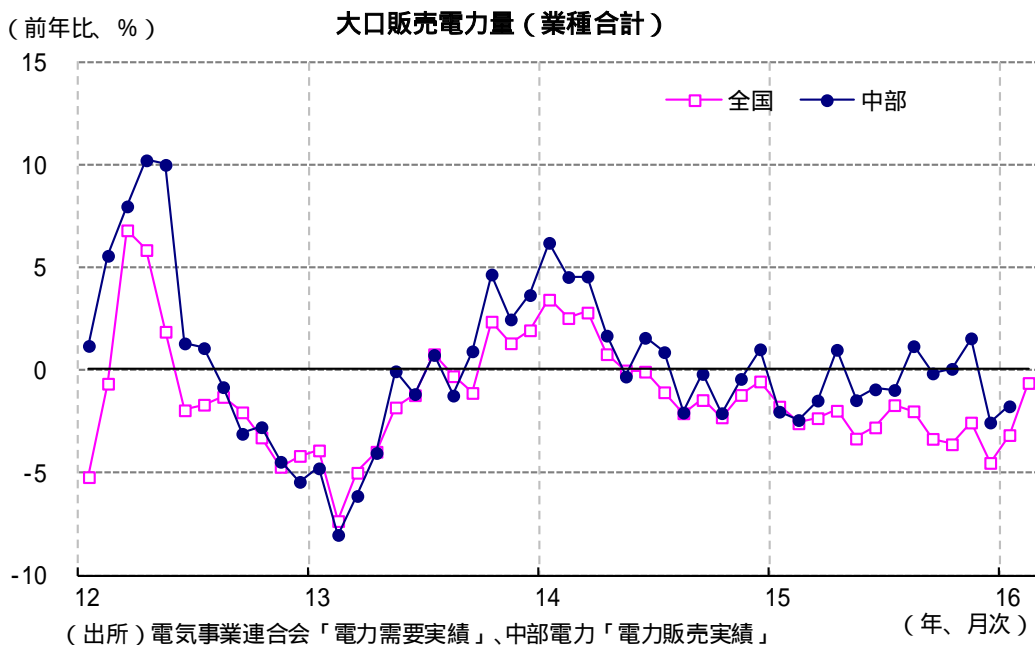
中部経済新聞社報道のトヨタ自動車国内生産計画によると、同社の向こう3ヶ月（16年3月～5月）の国内日当たり生産台数は1万3千台後半の水準で推移する見込みである。愛知製鋼工場爆発による生産ライン停止による2月の減産分を4月以降に振り向けて挽回を図る計画であり、季節調整済みの国内生産台数（実績+見込み）の動きをみても、当面は高め水準での推移が見込まれている。



1月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年同月比 - 12.1%と5ヶ月連続で減少した。国内受注は同 - 9.1%と4ヶ月連続で減少し、海外受注も同 - 13.5%と7ヶ月連続で減少した。地域別では、欧州（同 + 3.7%）は増加したが、米国（同 - 1.4%）、中国（同 - 21.5%）を含むアジア計（同 - 36.3%）、その他（同 - 38.3%）などは減少した。



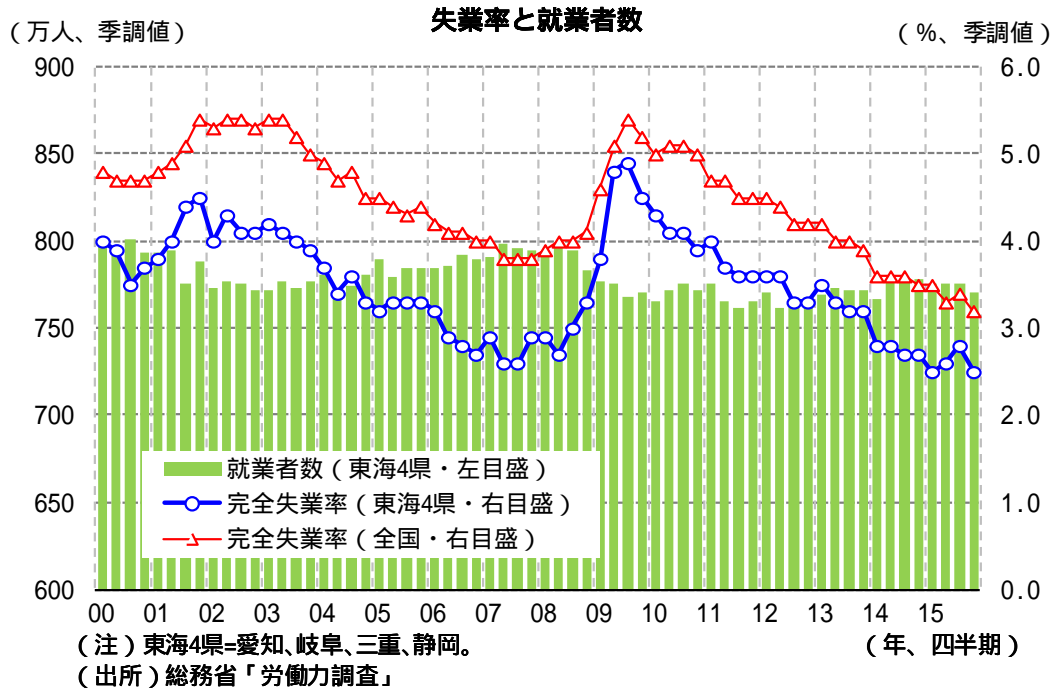
1月の中部電力管内の大口電力量（契約電力500kw以上）は、前年同月比 - 1.8%と2ヶ月連続で減少した。紙・パルプ（同 + 2.8%）、化学（同 + 2.2%）、窯業・土石（同 + 2.8%）、食料品（同 + 1.1%）が増加したが、鉄鋼（同 - 7.8%）、非鉄金属（同 - 4.1%）、機械（同 - 2.0%）などが減少した。



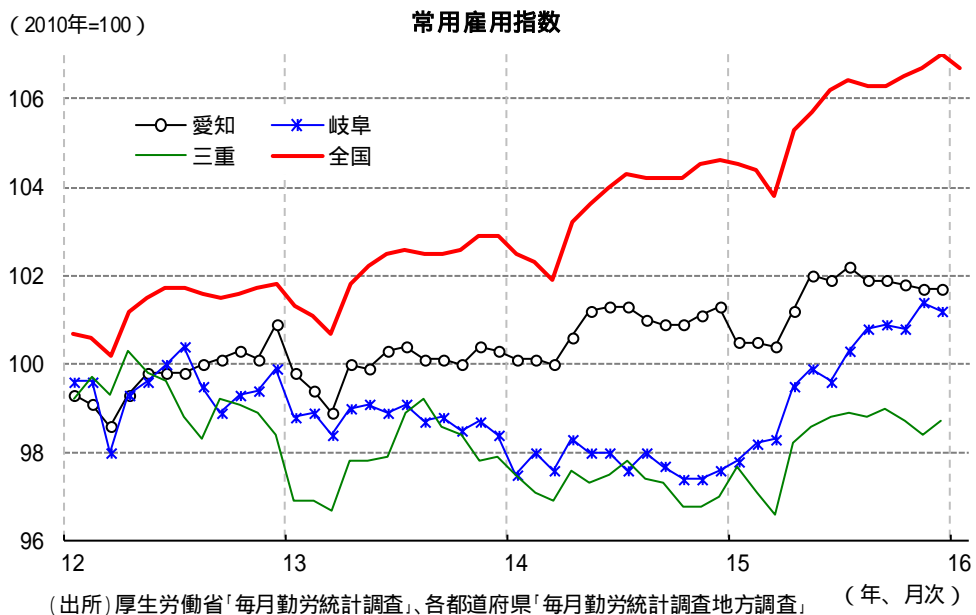


### 3. 雇用 ~ 横ばい圏で推移している

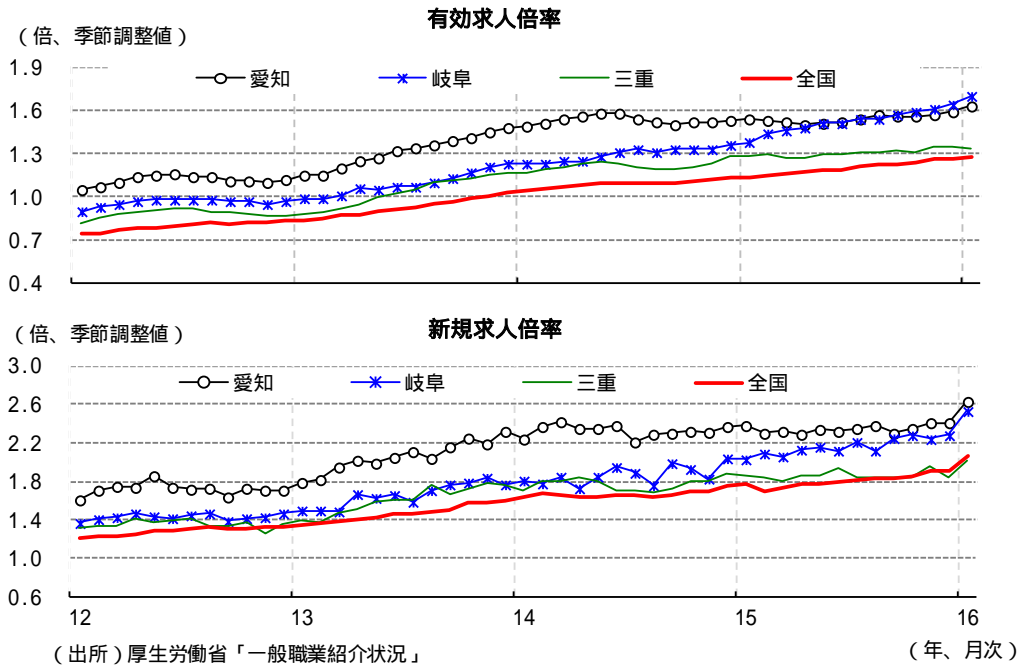
2015年10～12月期の東海4県の完全失業率は2.5%（前期差 - 0.3%ポイント）と低下し、全国（3.3%）に比べて低い水準で推移している。一方、同時期の就業者数は前期差6万人の減少となった。東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱いものの、持ち直しの動きが続いている。有効求人倍率は高水準で緩やかに上昇している。



12月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.4%と24ヶ月連続で、岐阜県は同+3.7%と12ヶ月連続で、三重県は同+1.8%と9ヶ月連続で上昇した。東海3県の常用雇用指数は、岐阜県を除き全国（同+2.3%）に比べて弱いものの、持ち直しの動きが続いている。

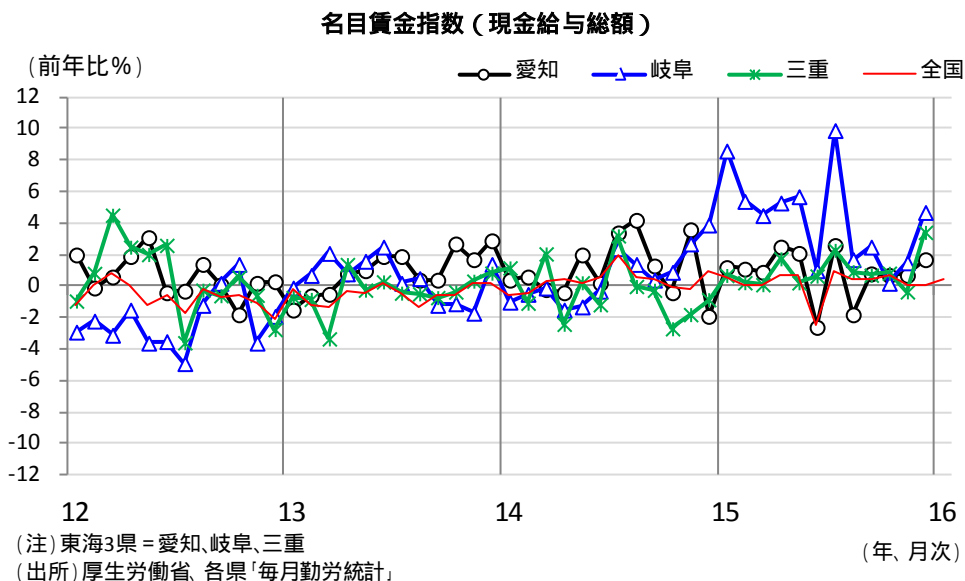


1月の東海3県の有効求人倍率（季節調整値）は、愛知県が1.63倍と3ヶ月連続で前月（1.59倍）を上回り、岐阜県は1.70倍（前月1.64倍）と5ヶ月連続上昇した。一方、三重県は1.33倍と3ヶ月ぶりに前月（1.35倍）を下回った。新規求人倍率（同）は、岐阜県は2.53倍と2ヶ月連続で上昇し、愛知県（2.63倍）と三重県（2.02倍）はいずれも2ヶ月ぶりに上昇した。

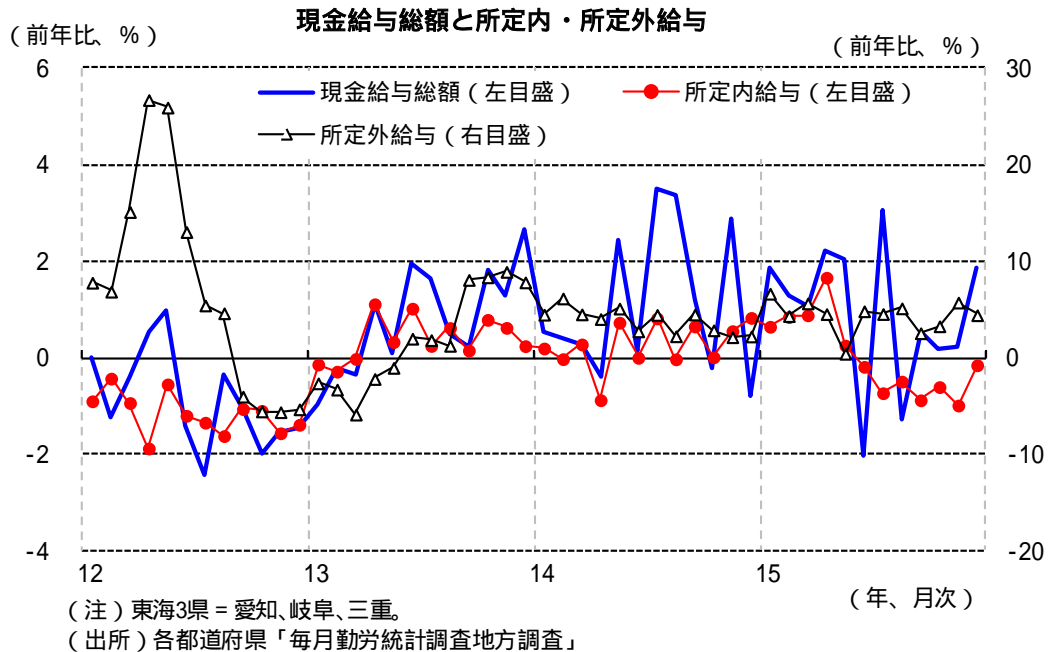


#### 4. 賃金 ~ 緩やかに増加している

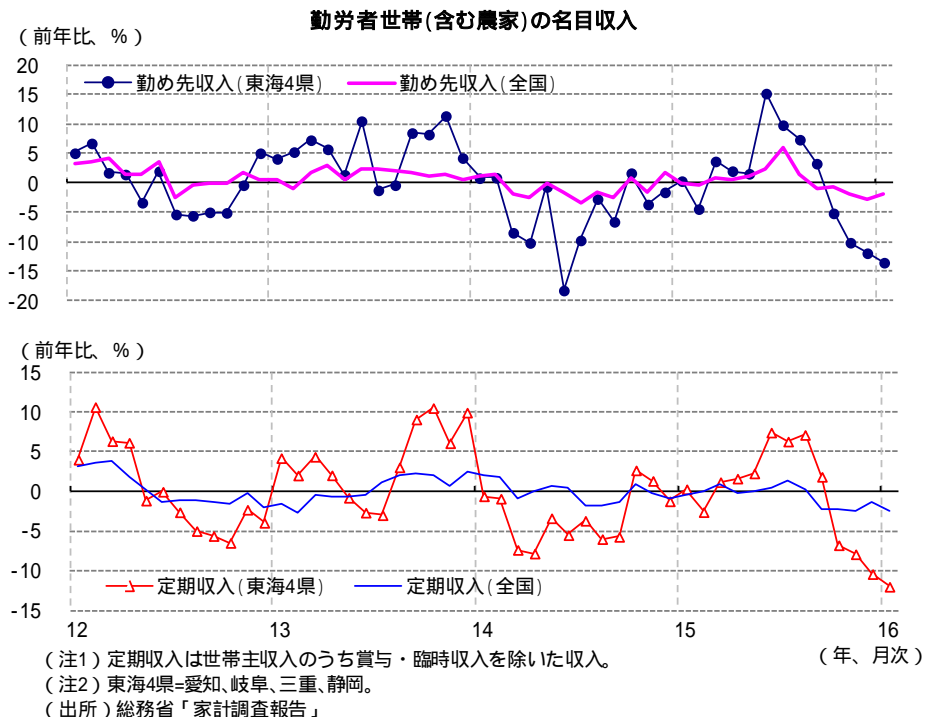
東海3県の12月の名目賃金指数（現金給与総額）をみると、愛知県は、前年比+1.7%と4ヶ月連続、岐阜県は同+4.7%と6ヶ月連続、三重県は同+3.4%と2ヶ月ぶりに増加した。今後については、所定外給与の増加を背景に、給与全体では名目ベースで緩やかな増加が続くと見込まれる。



東海3県の12月の一人当たり現金給与総額（加重平均）は、前年比+1.8%と4ヶ月連続で増加した。所定内給与は同-0.2%と7ヶ月連続で減少したが、所定外給与は同+4.4%と31ヶ月連続で増加した。

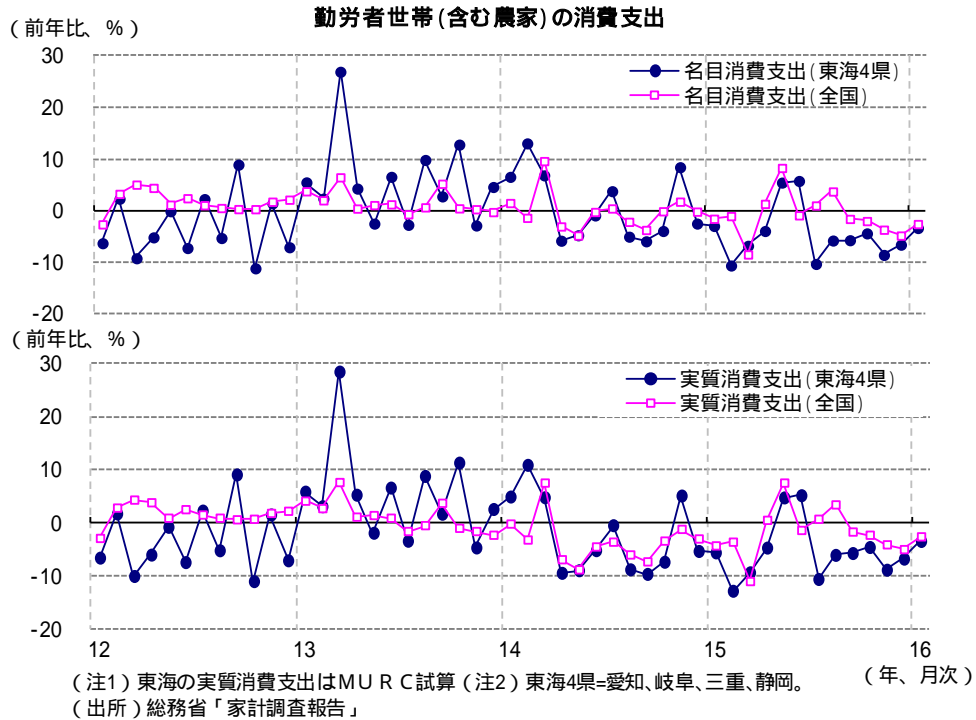


家計調査によると、1月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の賞与を含む勤め先収入は前年比 - 13.4%と4ヶ月連続で減少した。また、定期収入（世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入）も前年比 - 12.0%と4ヶ月連続で減少した。

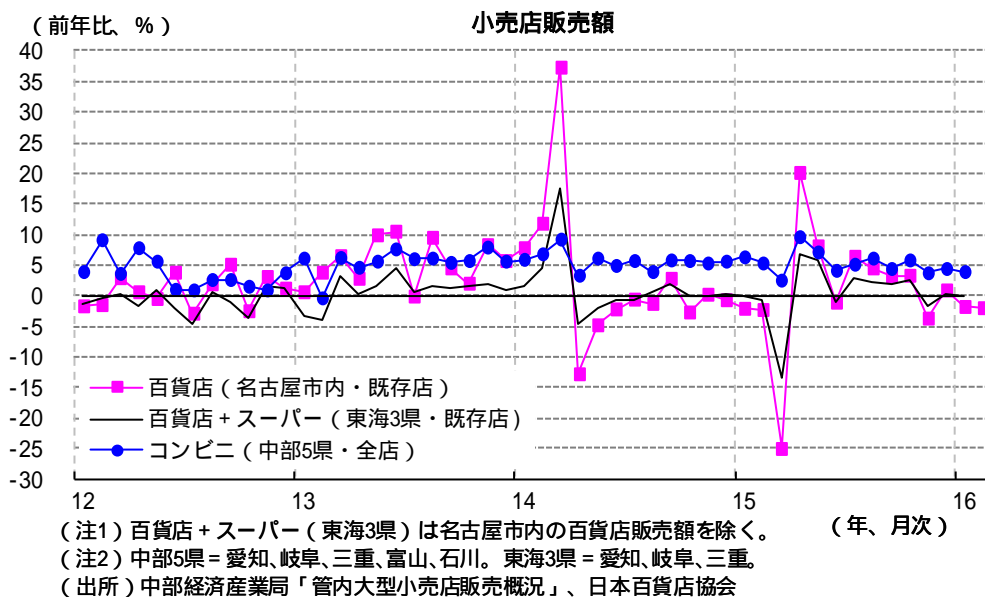


5. 個人消費 ～横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き

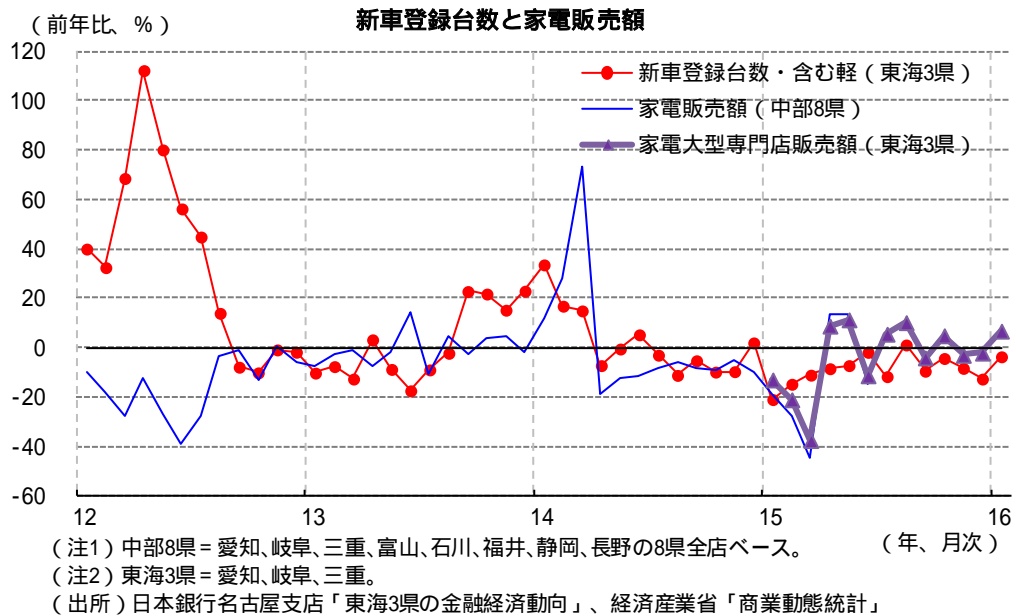
1月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の消費支出は、名目で前年比 - 3.4%、実質で同 - 3.5%と、いずれも7ヶ月連続で減少した。個人消費は、他の消費関連の指標も合わせてみると総じて横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる。今後の個人消費は、実質賃金の増加はあまり期待できず、節約志向も続いており、横ばい圏での推移が見込まれる。



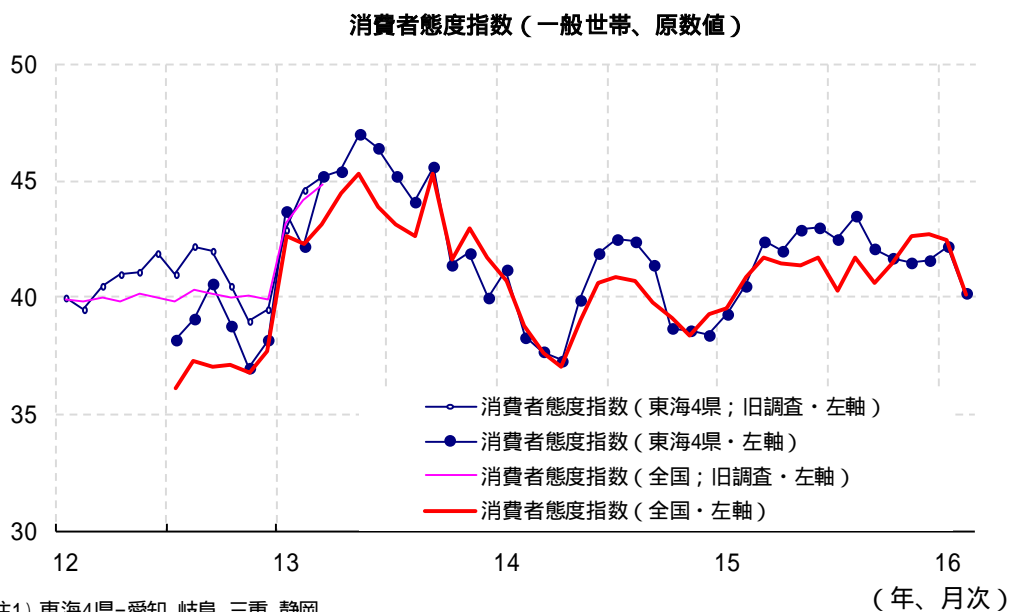
1月の東海3県の大型小売店（百貨店＋スーパー、既存店）の販売額は同 - 0.2%と2ヶ月ぶりに減少した。一方、1月の中部5県のコンビニ販売額（全店）は同 + 3.9%と増加が続いた。2月の名古屋市内の百貨店販売額は、中国の春節の影響もあり免税販売が下支え要因となったが、気温が低い日が多かったことから、婦人服など春物衣料が苦戦し、前年比 - 1.9%と2ヶ月連続で減少した。



1月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、前年比 - 3.6%と5ヶ月連続で減少した。車体課税見直しの影響による軽自動車販売の落ち込みが引き続きマイナスに寄与した。また、1月の東海3県の家電大型専門店販売額は、同 + 6.8%と3ヶ月ぶりに増加した。

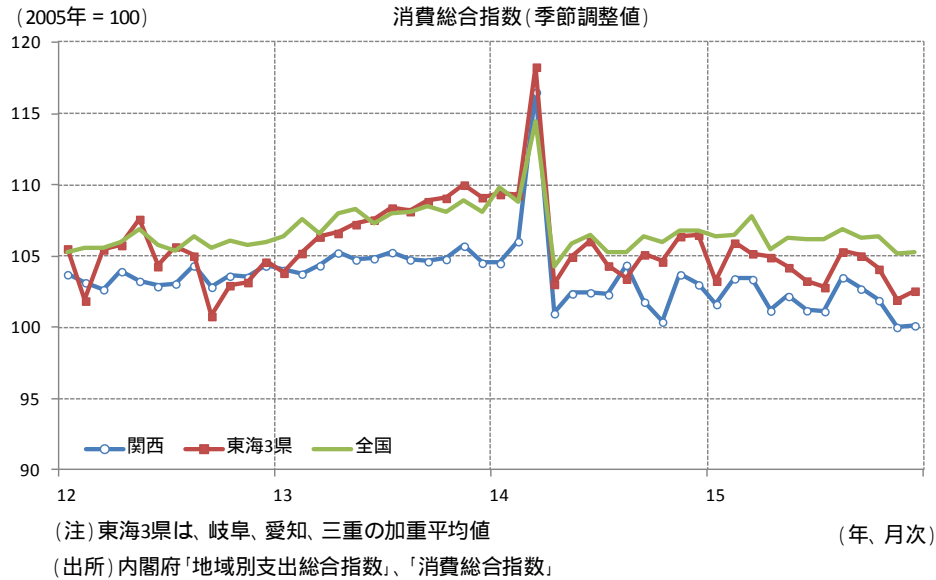


消費者マインドを表す消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、2月は前月差 - 2.0ポイントと3ヶ月ぶりに低下した。実質所得の落ち着きにより、消費者マインドはこのところ横ばい圏で推移していたが、先行きに対する不安の高まりから、2月は大きく低下した。今後については、内外景気の先行き不透明感が続くことから、横ばい圏での推移が見込まれる。



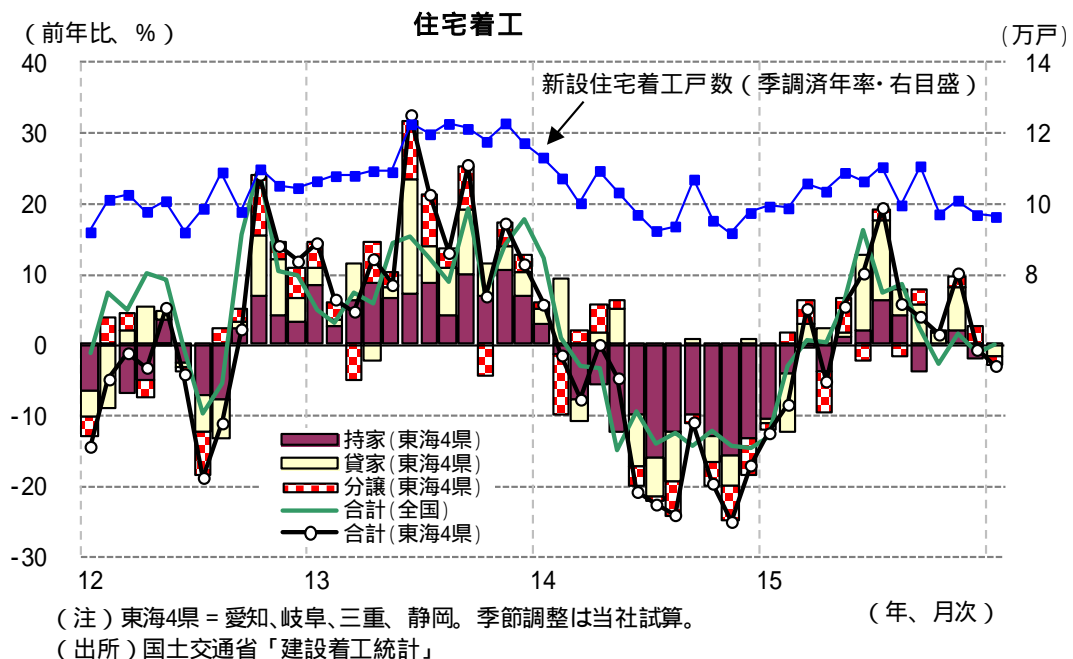
(注1) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。  
 (注2) 消費者態度指数は一般世帯、東海4県は原数値、全国は季節調整値。  
 2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。  
 郵送調査の2012年7月～2013年3月は試験調査による参考値。  
 (出所) 内閣府「消費動向調査」

内閣府が2月に公表した地域別消費総合指数によると、東海3県のサービス消費を含む個人消費は、14年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げた横ばい圏で推移していたが、15年末にかけてやや弱含んでいる。小売店販売は、インバウンド消費の影響もあって、前年比でみて増加となる局面もあったが、インバウンドを除いた家計消費のレベルでは、天候不順も影響して横ばい圏で弱い動きが出ている。

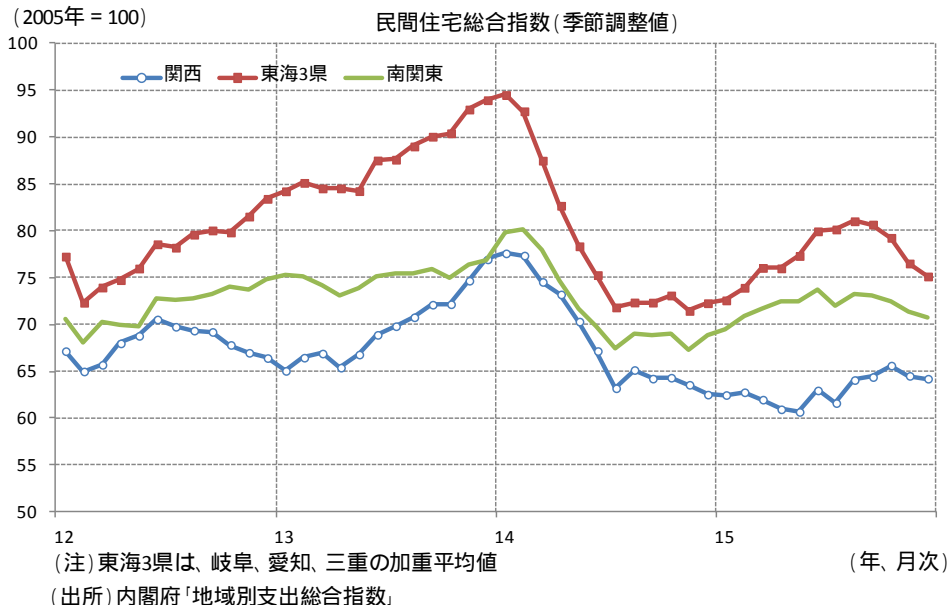


## 6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

1月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は前月比で -0.5%と2ヶ月連続で減少、均してみると横ばい圏で推移している。また、前年比では同 -2.9% (7,746戸)と2ヶ月連続で減少した。利用関係別の寄与度は、分譲は5ヶ月ぶり、貸家は11ヶ月ぶりにマイナス寄与となった。先行きについても、横ばい圏での推移が見込まれる。

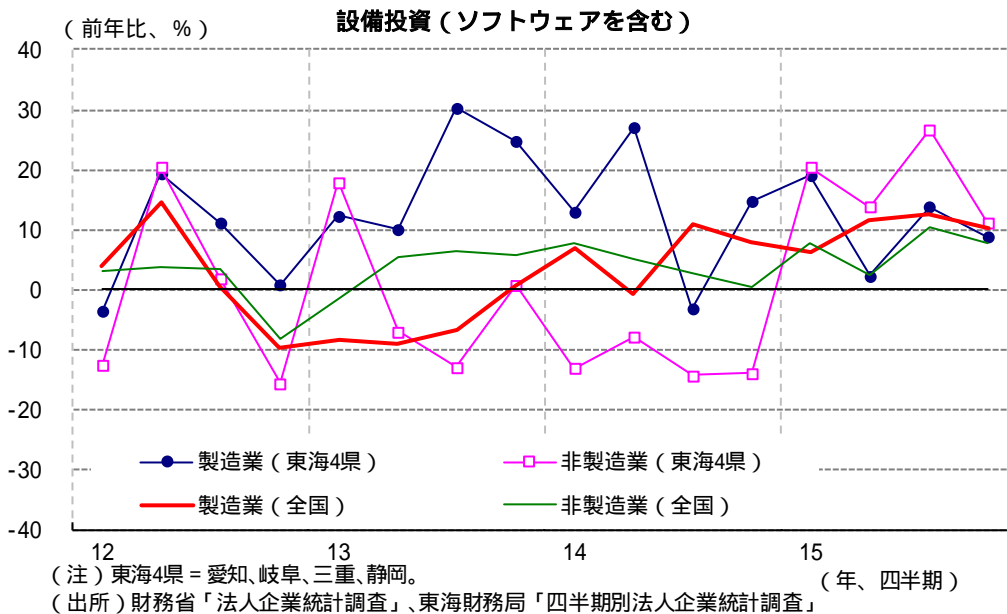


内閣府が2月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、東海3県（岐阜、愛知、三重）の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、14年末以降、持ち直してきたが、15年8月をピークに弱い動きとなっている。



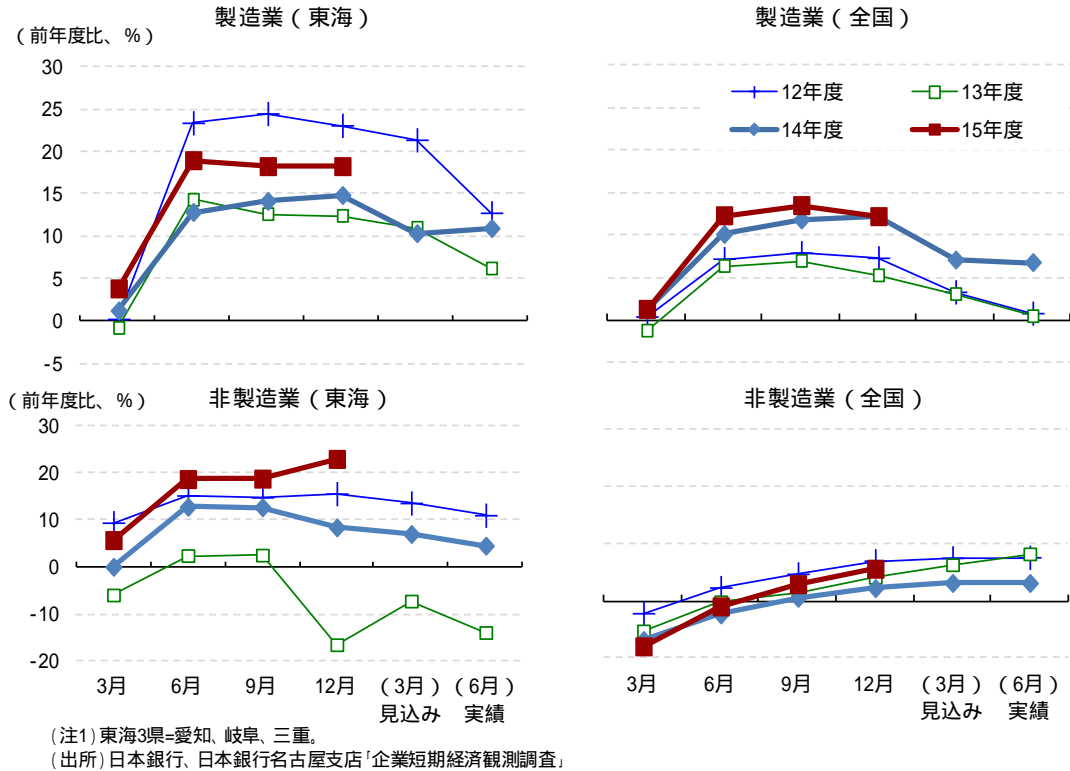
### 7. 設備投資 ~ 増加している

2015年10～12月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+9.9%と5四半期連続で増加した。製造業は同+8.9%と5四半期連続で増加、非製造業は同+11.2%と4四半期連続で増加した。

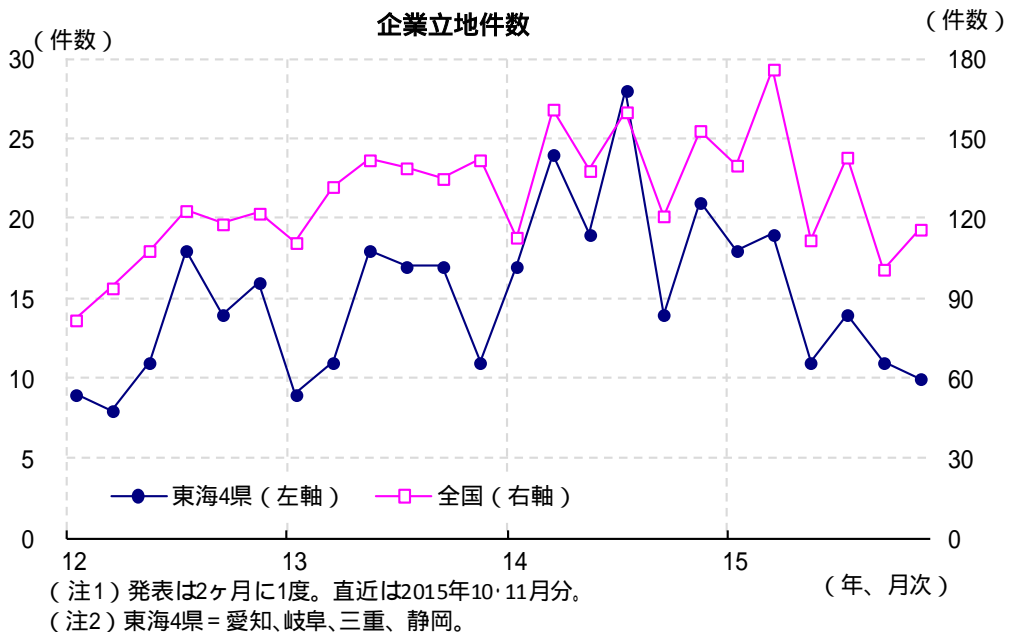


日銀短観12月調査によると、東海3県の15年度設備投資計画は全産業で前年比+20.4%、製造業で同+18.2%、非製造業で同+23.0%と増加を見込んでいる。製造業は9月調査と同水準、全産業、非製造業は上方修正され、全国と比べても高めの計画となっている。非製造業の中小企業については、14年度の伸びが高めであったこともあり、前年比でマイナスを見込んでいる。

設備投資額(含む土地投資額)

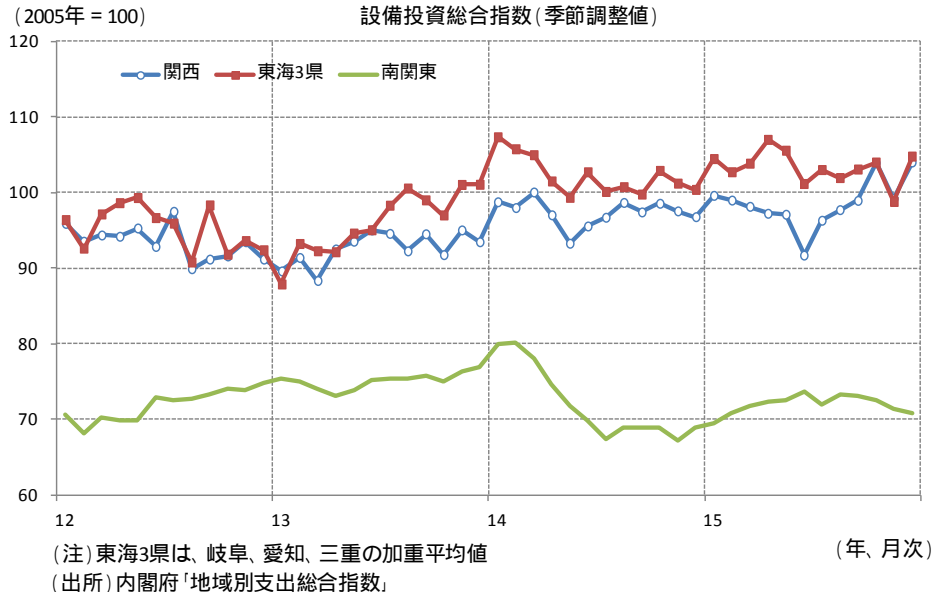


2015年10・11月の東海4県の企業立地件数は10件と、前期（8・9月；11件）から減少し、前年同期（21件）と比べても減少している。東海地区の企業立地は15年に入って弱含んできている。



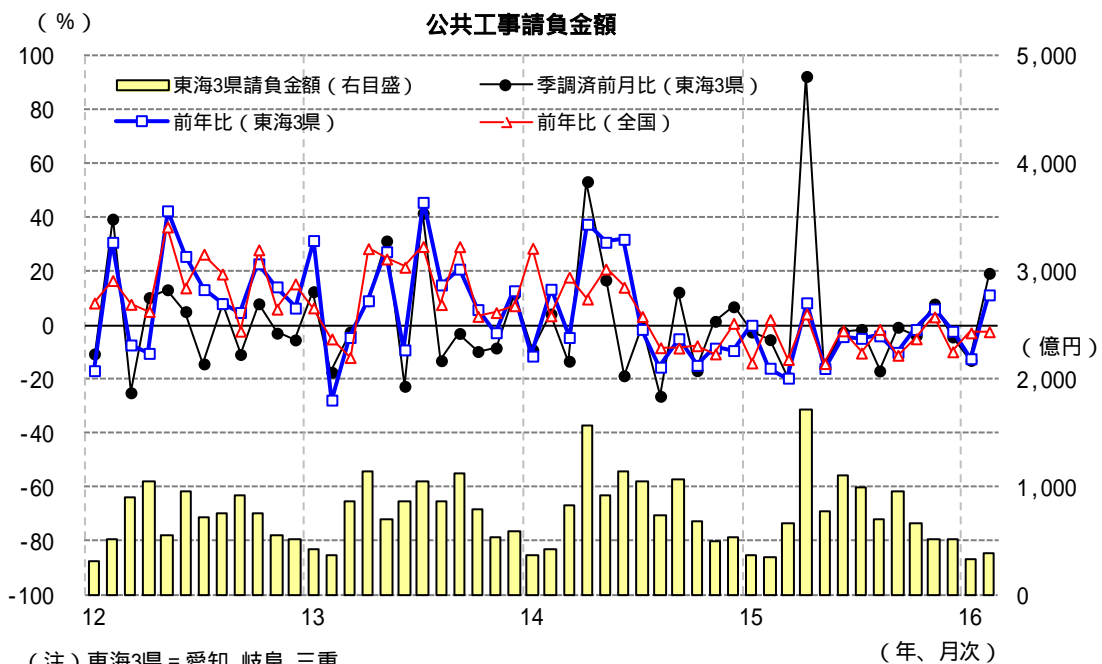


内閣府が2月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、東海3県（岐阜、愛知、三重）の民間企業設備投資は、14年以降を均してみると高水準で横ばい圏で推移している。

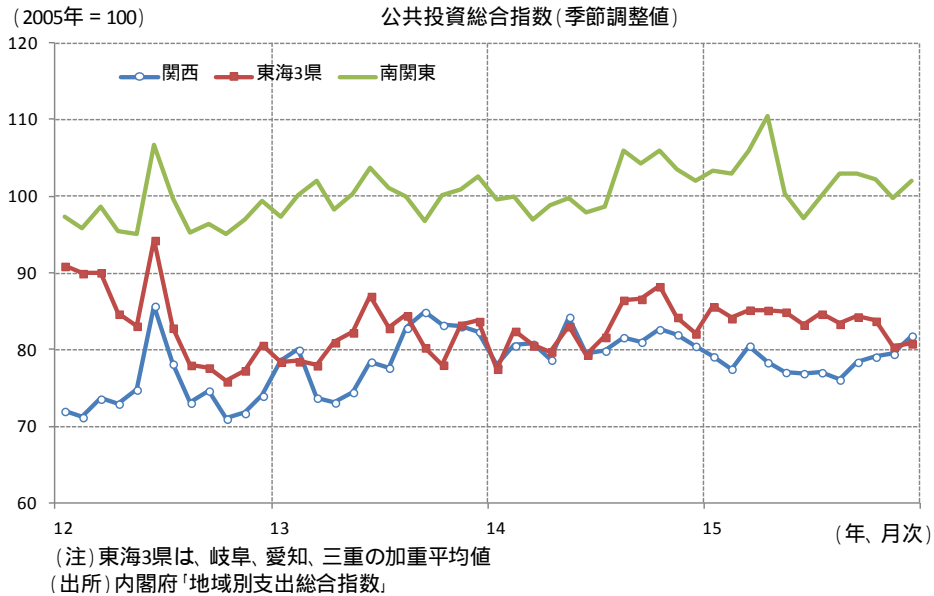


### 8. 公共投資 ~弱含んでいる

2月の東海3県の公共工事請負額は、前年比+11.5%の396億円と3ヶ月ぶりに前年を上回った。発注者別では、地方は同-21.1%と減少したが、国は同+89.5%と増加した。また、2月の季調済み前月比は+19.5%と3ヶ月ぶりに増加した。単月では増加したが、基調としては弱含んでいる。今後は、2015年度補正予算の執行により一時的な増加はあるものの、基調としては弱含みでの推移が見込まれる。

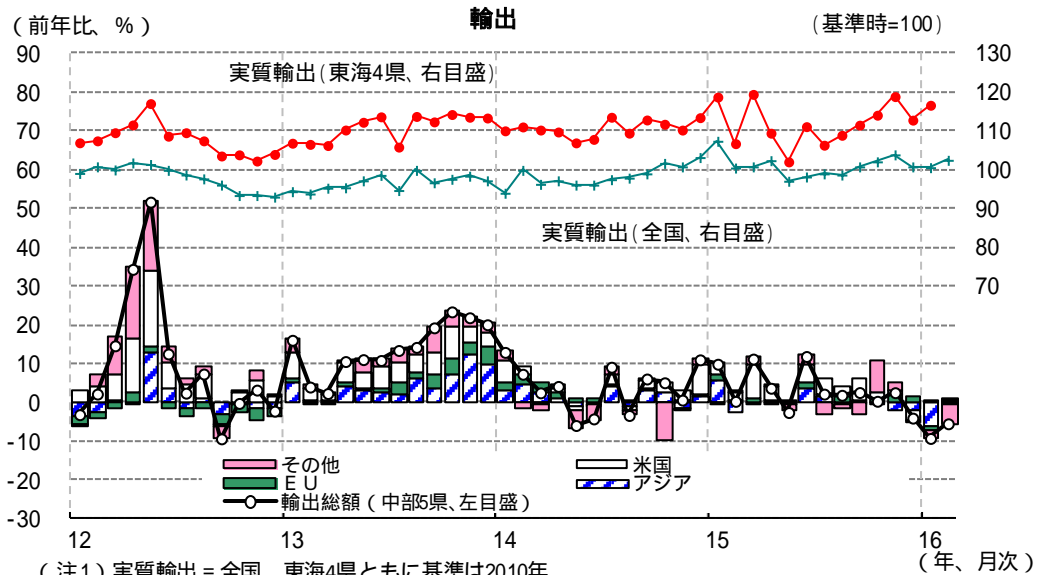


内閣府が2月に公表した地域別公共投資総合指数によると、東海3県（岐阜、愛知、三重）の工事進捗ベースでの公共投資は、15年は過去と比べて水準は高めながらも横ばい圏で推移しており、足下で弱含んでいる。



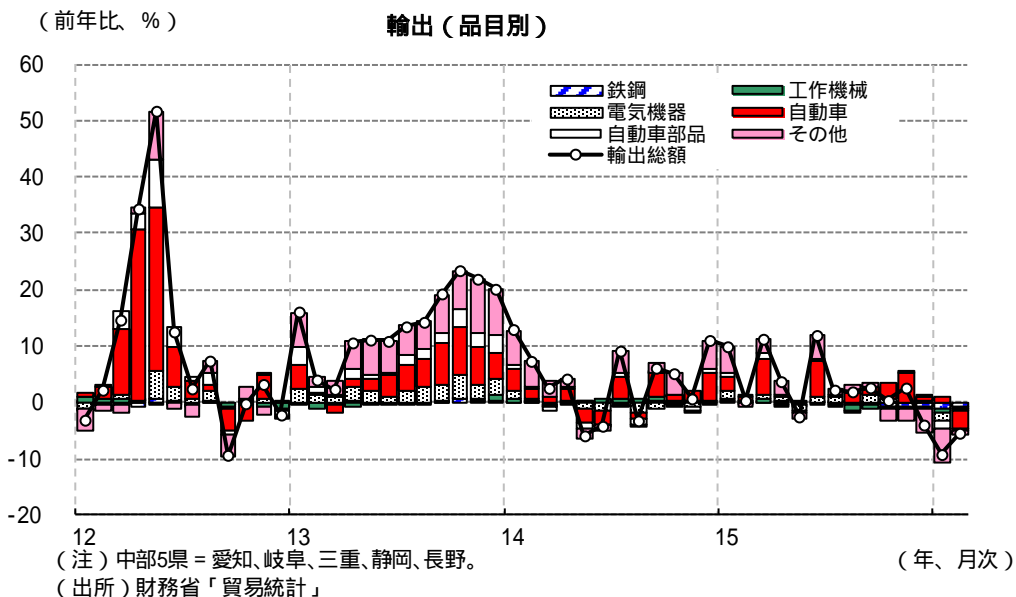
9. 輸出入 ~ 輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい

1月の実質輸出（季調済）は、前月比+3.4%と2ヶ月ぶりに増加した。一方、2月の名古屋税関管内の輸出額（速報）は前年比-5.4%と3ヶ月連続で減少した。米国向けは同+0.5%と2ヶ月連続で、EU向けは同+1.7%と2ヶ月ぶりに増加したが、アジア向けは同-2.4%と7ヶ月連続で減少した。先行きは、新興国経済減速の影響もあって、輸出は横ばい圏での推移が見込まれる。



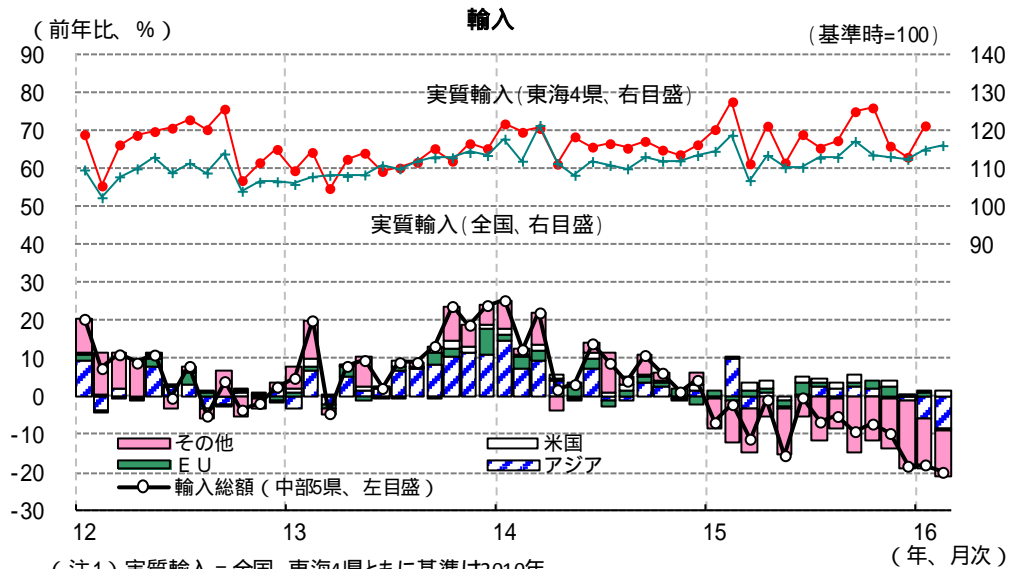
(注1) 実質輸出 = 全国、東海4県ともに基準は2010年。  
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。  
 (出所) 財務省「貿易統計」、日本銀行「実質輸出入」、  
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

2月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、主力の自動車(同-10.1%)は7ヶ月ぶりに減少し、工作機械(同-14.2%)は8ヶ月連続、鉄鋼(同-32.3%)は7ヶ月連続、電気機器(同-0.7%)は2ヶ月連続で減少した。



(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。  
 (出所) 財務省「貿易統計」

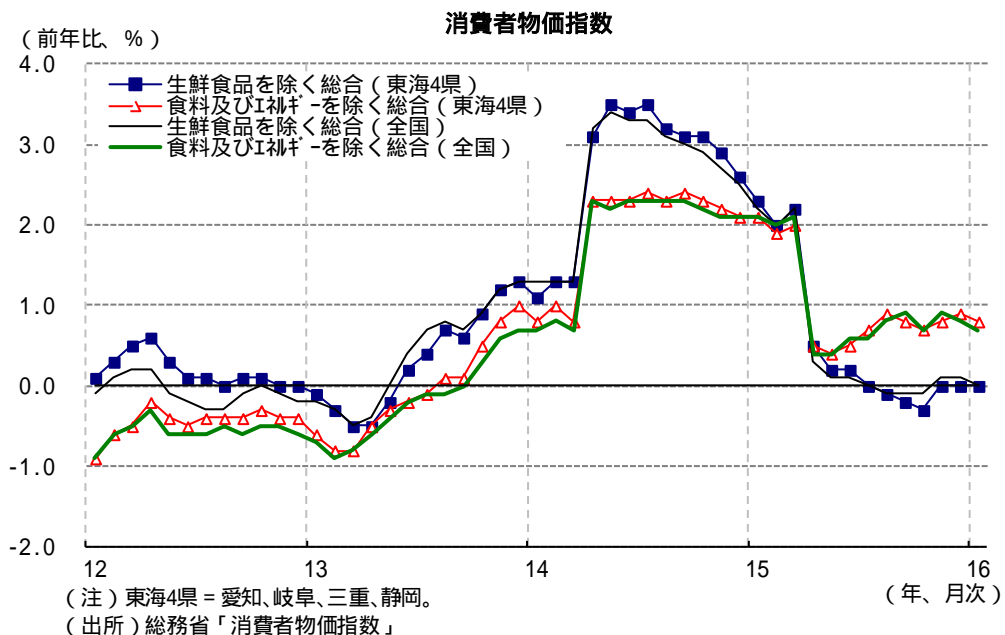
1月の実質輸入（季調済）は、前月比+7.3%と3ヶ月ぶりに増加した。また、2月の名古屋税関管内の輸入額（速報）は前年比-20.0%と14ヶ月連続で減少した。品目別には、原油及び粗油、液化天然ガス等が減少し、地域別には中東、アジア等が減少に寄与した。今後は、国内の需要動向を反映して、実質輸入は横ばい圏での推移が見込まれる。



(注1) 実質輸入 = 全国、東海4県ともに基準は2010年。  
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。  
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」  
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

## 10. 物価 ~ 横ばい圏で推移している

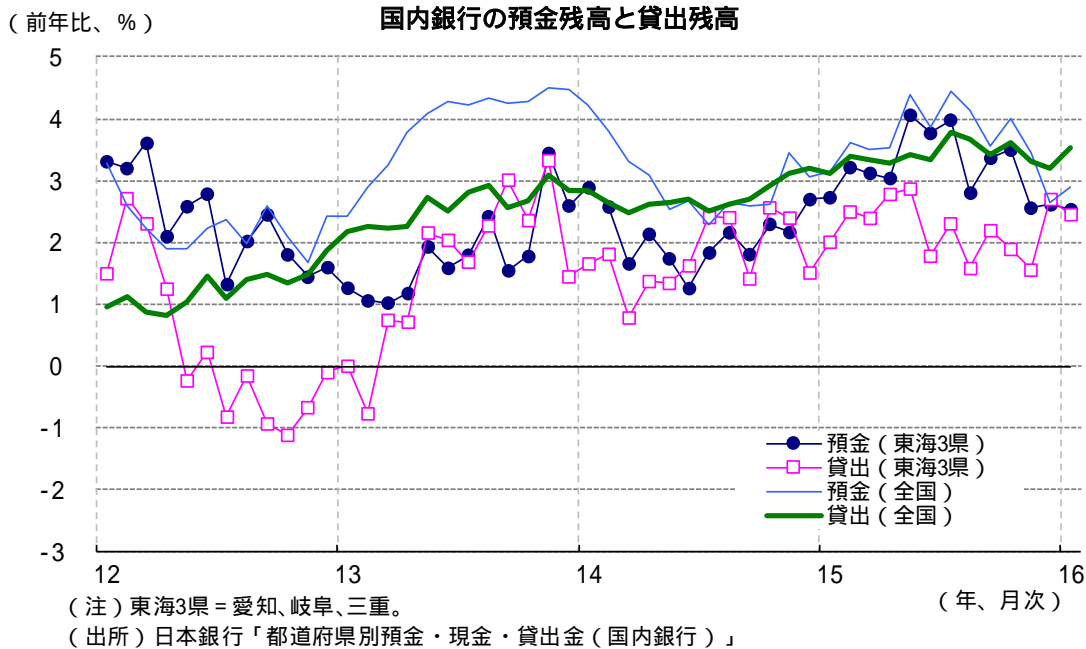
1月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年と同水準となり、3ヶ月連続で横ばいとなった。食料・エネルギーを除く総合は同+0.8%と30ヶ月連続で上昇、消費税率引き上げの影響一巡後も円安の影響もあって緩やかな上昇が続いている。今後は、エネルギー価格の下落や円高による輸入物価下落が物価低下圧力として働くため、物価はやや低下基調で推移しよう。



(注) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。  
 (出所) 総務省「消費者物価指数」

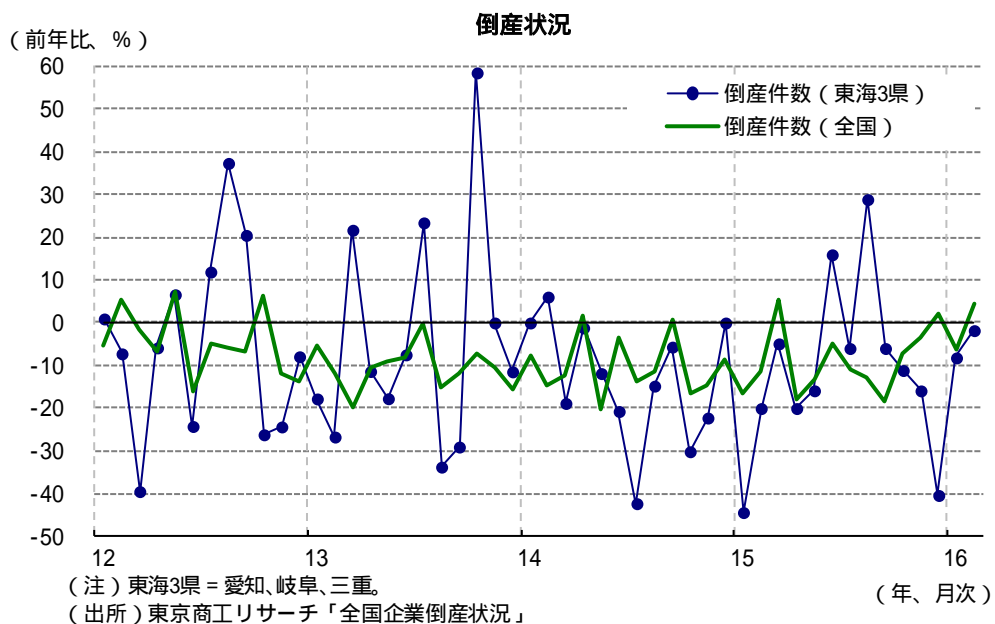
### 11. 金融 ～預金、貸出ともに増加

1月の東海3県の預金残高（国内銀行ベース）は、個人預金が堅調に推移し、前年比+2.5%と増加が続いている。貸出残高（国内銀行ベース）は、同+2.5%と35ヶ月連続で増加した。日銀名古屋支店では資金需要が幾分持ち直しつつあることが増加の要因とみている。貸出残高は今後も緩やかな増加が続くと見込まれる。

































### 12. 倒産 ～倒産件数、負債総額ともに減少

2月の東海3県の倒産件数は前年比-1.8%の55件と6ヶ月連続で減少した。愛知県は前年比-5.4%と4ヶ月連続、三重県（同-33.3%）は3ヶ月ぶりに減少した。一方、岐阜県（同+40.0%）は6ヶ月ぶりに増加した。2月の東海3県の負債総額は、同-81.3%の59億円と3ヶ月連続で前年を下回った。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	→		→	全国	→		→	
	東海	→		→	輸出	東海	↗		→
	関西	→		→	関西	→		→	
個人消費	全国	↘		→	全国	→		→	
	東海	→		→	輸入	東海	→		→
	関西	→		→	関西	↗		↘	
住宅投資	全国	→		→	全国	→		↘	
	東海	→		→	生産	東海	→		→
	関西	→		→	関西	→		→	
設備投資	全国	↗		↗	全国	↗		→	
	東海	↗		↗	雇用	東海	→		→
	関西	↗		→	関西	↗		→	
公共投資	全国	↘		↘	全国	↗		↗	
	東海	↘		↘	賃金	東海	↗		→
	関西	↘		↘	関西	→		→	



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。  
 2. シャド一部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。  
 3. 全国は3月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

## 【各項目のヘッドライン】

項目		2月のコメント	3月のコメント
1. 景気全般	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
2. 生産	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
4. 賃金	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	緩やかに増加している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
5. 個人消費	全国	弱い動きが見られる	弱い動きが見られる
	東海	横ばい圏で推移しているが一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが一部に弱い動き
	関西	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
6. 住宅投資	全国	持ち直しが一服	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きが一服	横ばい圏で推移している
7. 設備投資	全国	緩やかな増加基調	緩やかな増加基調
	東海	増加している	増加している
	関西	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
8. 公共投資	全国	横ばい圏で推移している	減少している
	東海	弱含んでいる	弱含んでいる
	関西	弱含んでいる	弱含んでいる
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直しつつある、輸入は横ばい圏で推移している	輸出、輸入とも横ばい圏で推移している
	東海	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい
	関西	輸出入とも1月は大幅に増加	輸出は横ばい、輸入はこのところ増加
10. 物価	全国	企業物価は下落、消費者物価は横ばい圏	企業物価は下落、消費者物価は横ばい圏
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに上昇	緩やかに上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数は増加、負債総額は減少

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）

## 「グラフで見る東海経済」の見方

### 【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

### 【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

### （注）

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

### 【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

### 【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

### 【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

### 【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

### 【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

### 【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。